# 評価結果概要表

# 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 風花
所在地	山口県山陽小野田市大字山川90-1
電話番号	0836-71-1710 事業所番号 3577700226
法人名	医療法人 建仁会

訪問調査日	平成	21 年	8 /	] 27	日	評価確定日	平成	21	年	10	月	28	日
評価機関の	特定非営利	活動法人や	まく	でか	護り	ナービス評価	調査ネッ	ット	ワー	-ク			
名称及び所在地	山口県	山口市	吉敷	下東3	3丁[	11番1号 山	」口県総額	合保	.健会	註	内		

# 【情報提供票より】

### (1)組織概要

開設年月日	平成	16 年 4	月	1 日						
ユニット数	2	ユニッ	7	利用足	定員計	18	人			
職員数	14	人		常勤	11 人	非常勤	3 人	(常勤換算	12.4	人)

### (2)建物概要

I	建物構造	鉄筋コン	クリートRC	造り			
	连初伸坦	3	階建ての	~	1	階部分	

# (3)利用料等(介護保険自己負担分を除く)

( ) ( ) ( )	(							
家 賃	月額	55,000	円	敷	金	有	100,000	日
保証金	無		円	償却	『の有無	無		
食費	朝食	300		円	昼色	ALL VIEW	550	円
艮貝	夕食	550		円	おや	つ	100	円
その他の費用	月額	18,750	円					
での他の真片	内訳 光熱	熱水費·共益費	12,90	0円 日	日用品費	3,000円	趣味·娯楽費	1,500円

# (4) 利用者の概要 (8月27日現在)

利用者数	18	名	男性	1	名	女性	17	名
	要介護 1		5	要介	護4		3	
利用有效	要介護 2		5	要介	護5		3	
	要介護3		2	要支	援 2			
年齢	平均	86.6 歳	最低	76	歳	最高	99	歳

#### (5)協力医療機関

協力医療	医科 し	Jおん内科·外科クリニック
機関名	歯科 田	日中デンタルクリニック

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

#### (優れている点)

利用者が慣れ親しんだ家族や親戚の人達との関わりを尊重し、ケアカンファレンスに家族が参加されたり、年2回家族アンケートをとって家族の要望を汲み取りながら、家族と連携を図り、日々楽しく過ごせるように支援をされています。面会者が多く、年4回家族会で共にする行事(バーベキュー、一泊の温泉旅行等)は、家族がテントを張られるなど、協働で活発に行われ、利用者と家族との新しい関係の構築にも役立っています。

#### (特徴的な取組等)

医療連携体制があり、在宅医療の24時間体制も整っており、ターミナルケアを希望された方に対しては関係者が十分に話し合い、看取りを支援されています。開設以来9名の看取りをされています。最近1名、看取られましたが、利用者は家族と一緒に寝たり、入浴や食事をされたようです。外部から介護アドバイザーを招き、利用者と向き合う心構えや介護技術の向上を目指して、前向きに取り組んでおられます。

# 【重点項目への取組状況】

#### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

全体会議で評価結果を報告し、取り組みを期待したい項目はなかったので、事業所が目指している地域密着型サービスの方向性が間違っていないことを確認でき、調査員とのいろんな話し合いの中で示唆を得ておられます。

### (今回の自己評価の取組状況)

全職員は、評価の意義について理解し、ケアの振り返りの場として捉え、取り組んでいることを記入し、管理者やリーダーは、職員からの質問に答えたり、意見交換をしながら、まとめて作成し、1ヵ月半かけて取り組まれたことをサービスの質の向上に活かしておられます。

#### (運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催し、メンバーは、自治会長、民生委員、消防団員、住民、消防署員、警察署員、市職員、家族代表、利用者代表、医師、ケアマネジャー、施設長、管理者、職員等で利用者の状況や日々のかかわり、外部評価報告、食事会等で意見交換を行ない、参加者から災害時の対応等沢山の意見をもらい、サービスに活かしておられます。

#### (家族との連携状況)

毎月発行のホーム便りに請求書を添えて送付し、面会時に個人記録や家族ノート(連絡帳)、健診票、アルバム等を見てもらい、電話、家族会行事、ケアカンファレンスなどで暮らしぶりや健康状態などを話し合い、年2回家族アンケートを実施して意見や要望を聞き、家族会行事を年4回行っておられます。

#### (地域との連携状況)

毎月、地域のお寺の住職さんが来られて法話をされたり、利用者と職員がお寺の掃除や行事に出かけたり、地域の祭りで餅つきの即売、運動会で玉入れ等に参加、近くの喫茶店に行ったり、散歩などで、積極的に地域の人々と交流をされています。

# 評 価 結 果

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	理念に基づ〈運営 . 理念の共有			
1 (1)		地域密着型サービスを行うため、「皆に優しく 共に楽しく 地域の中でいつまでも自分らしく生活していける・・・」というホーム独自の理念を職員でつくりあげている。		
2 (2)		理念を掲示し、名札の裏に明記し、会議の前に唱和し、カンファレンスなどで話し合っている。全職員は理念を共有し、日々のケアに取り組んでいる。		
2	. 地域との支えあい			
3 (7)	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治	毎月、地域のお寺の住職が来られて法話をされたり、利用者と職員がお寺の掃除や行事に出かけたり、地域の祭りで餅つきの即売、運動会で玉入れに参加、近くの喫茶店に行ったり、散歩などで、積極的に地域の人々との交流を楽しんでいる。		
3	. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)		1ヵ月半自己評価に取り組んでいる。職員は記入後に質問や意見 交換をし、管理者やリーダーがまとめて作成し、サービスの質の向 上に活かしている。		
5 (10)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価	2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、消防団員、警察官、市職員、家族、利用者、医師、ケアマネジャー、施設長、管理者等のメンバーで、状況報告や外部評価報告、食事会等で意見交換をし、サービスに活かしている。		
6 (11)		地域ケアマネ協議会等に法人から多数参加しており、ホームの職員も気軽に市の担当課の職員と情報交換や相談を行ってサービスの質の向上に努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)				
4	4.理念を実践する為の体制							
7 (16)	理、職員の異動等について、家族等に定期的及び	毎月発行のホーム便りに請求書を添えて送付し、面会時に個人記録やアルバム、家族ノート(連絡帳)、金銭管理簿などを見てもらい、電話、家族会行事、ケアカンファレンスで暮らしぶりや健康状態、職員の異動を報告している。						
8 (18)	家族等が意見 不満 苦情を管理者や職員ならびに	面会時や電話、運営推進会議、家族アンケート等で家族の意見や 苦情を聞き運営に反映している。苦情相談窓口、担当者、外部機 関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めている。						
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤11名、非常勤3名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応できるようにしている。職員の急な休みには、話し合いで勤務調整している。						
		異動や離職は最小限になるように努力している。新規採用職員等の場合は、夜勤などの重複勤務を行って、利用者が安心して支援を受けられるように配慮している。						
5	. 人材の育成と支援							
	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確	新人研修や段階に応じた研修計画を立て、法人内外の研修に参加している。ホーム独自の勉強会も月1回開催して、働きながらのトレーニングを実施している。法人全体で、介護福祉士・看護師等の資格取得の助成を行い、職員のスキルアップに取り組んでいる。						
		山口県宅老所・グループホーム連絡会や地域のグループホーム協議会、ケアマネ会議で交流する機会をもち、研修会、勉強会、相互訪問をしながら、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。						

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	5	•	
<b>1</b> 3		家族と相談しながら、施設見学をしてもらい、他の利用者や職員と お茶を飲んだり、庭を散策しながら会話をして、馴染みの関係づく りをしている。入居前には全員の家庭訪問を行い、希望者は体験 入所ができるようにしている。		
2	. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一 、緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだ	職員は、利用者から味噌造り・らっきょ漬け・干し柿・梅ジュースの作り方などを習いながら一緒に行い、毎日の生活の中で、買い物や食事の準備、野菜作り、お花の手入れ、線や曲線書き遊びなどをして、共に楽しく過ごしながら、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		
	. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン . 一人ひとりの把握	<b>'</b>		
15 (38		寄り添って利用者の会話に耳を傾けたり、日々の行動や表情からサインを見逃さないようにして「寄り添い表」に記入し、職員が共有し、意見を出し合い、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、担当職員が中心になり、本人本位に検討している。		
2	·本人がより良〈暮らし続けるための介護計画の作	- =成と見直し		
<b>16</b>	本人がより良〈暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成して	ケアカンファレンスを月1回開催し、毎回半数の家族の参加があり、 希望や要望を聞き、課題やニーズを明確にし、その人らし〈暮らせ るように話し合って介護計画を作成している。家族が遠距離等で参 加出来ない場合は、事前に担当者が要望を聞き、介護計画の説 明も十分に行って作成している。		
17 (42		計画作成者と担当者が一緒にモニタリングを行ない、3ヶ月毎に全職員で見直しをしている。変化が生じた場合は、関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3	. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44	本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業	医療機関への送迎と付き添い、美容院への送迎、外食、ドライブ、 ふるさと巡り、墓参り、法事やお見舞いの付き添いなど、その時々 の要望に応じて柔軟な支援をしている。		

項目	取り組みの事実	印 (取り 組みを期待	 取り組みを期待したい内容
	(実施している内容・実施していない内容)	したい項目)	(すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良〈暮らし続けるための地域資源			
<ul> <li></li></ul>	家族の希望で全員が協力医療機関をかかりつけ医にしている。 りまれた 1回定期健診があり、医師が家族宛に「健診票」を記載している。 は 神科、眼科等への受診は、関係者が情報交換をして適切な医療受けられるように支援している。	<b></b>	
重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき 20 け早い段階から本人や家族等ならびにかかりつ (53) 等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有してい	本人や家族の希望や思いを大切にしている。医療連携体制をとるだって、看護師や医師などの24時間の協力体制はできている。重度付け医が終末期に向けた方針を、全職員が共有し、家族等と連携して、平均1年間に1.5人ぐらいの看取りを行っている。	Ł	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重	援		
プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 21 かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている。			
□ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 22 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように追 (59) たいか、希望にそって支援している。			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的	・ は生活の支援		
<b>食事を楽しむことのできる支援</b>   食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好る 23 力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や (61) 事、片付けをしている。		カー	
<ul> <li>入浴を楽しむことができる支援</li> <li>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわすに</li> <li>人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を診めるように支援している。</li> </ul>		を	

_								
	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)				
( 3	(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援							
	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、 楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	コンサート・展覧会・買い物・甘味処に行ったり、季節の花見や得意な家事(味噌造り・らっきょ漬け・干し柿・梅ジュース等)や趣味等楽しみごとや活躍できる場面をつくり、気晴らし出来るよう支援している。						
26 (68)	の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援してい	一人ひとりの希望に添って、散歩・花作り・近所の神社詣り・故郷訪問・地域のお祭り等、 気軽に戸外に出かられるよう支援している。 車椅子の利用者は店の前で職員が背負って、近所の甘味処に出かける事もある。						
( 4	)安心と安全を支える支援		-					
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、法人の勉強会や接遇委員会で身体拘束に ついて学び、職員は正し〈理解しており、抑制や拘束のないケアに 取り組んでいる。						
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかける弊害について研修を受け理解している。日中は玄関もリビングも居室もオープンにしている。外出を察知できるように工夫し、職員がすぐに同伴し、散歩を兼ねて気分転換を図っている。						
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための 知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に 取り組んでいる。	マニュアルを作成し、転倒・窒息・誤薬・行方不明・火災等を防ぐように、全職員が実習・テストを受け、リーダーがその都度指導をし、ユニット毎の会議で具体的な事故事例を議題にあげて話し合っている。						
30 (79)		マニュアルを作成し、緊急時の対応についての訓練を日常的に実施したり、研修の伝達訓練も実施している。急変や事故発生時の対応は、24時間体制の医療連携があるが、ホームの初期対応訓練もしている。						
<b>31</b> (81)	<u>災害対策</u> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用 者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の 人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、地震・火災・避難訓練を実施している。台風の時にどうするかなど、今回の集中豪雨の経験から、「豪雨・水害発生時の対応」を新たに作成している。避難場所も確認し、地域の協力も得ている。						

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(	5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支	爱		
32 (84	■服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と 症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情 報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	月2回、ホーム内で法人の薬剤師から定期的に薬剤管理指導を受けている。薬の情報を連絡帳に記入し、服薬は一人ひとり手渡しで服用を確認している。医師や看護師、薬剤師に体調不良等をフィードバックしている。		
33 (86	□ <b>腔内の清潔保持</b> □の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人 ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとと もに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりのペースに応じた声かけをしながら口腔ケアを 実施している。歯ブラシは1ヶ月で交換し、義歯の清掃、消毒、保 管の支援をしている。		
34	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確 保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた 支援をしている。	法人の栄養士から月2回ホーム内で栄養管理指導を受けており、 献立を点検したり、食事量や水分摂取量が確保できるように、刻み 食やとろみ食、ゼリー食などで工夫して支援している。		
35 (88		マニュアルを作成し、研修を受講している。手洗いやうがい・消毒を 徹底し、玄関先に消毒液を置き、噴霧による手指消毒を実施して いる。インフルエンザの予防接種を利用者や職員が受けている。		
	. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり 1)居心地のよい環境づくり			
<b>36</b> (91	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働き	廊下・リビング・洗面所・玄関等に花が生けてあり、季節が感じられるちぎり絵等が飾られている。ゆったりしたソファーや和室もあり、一人ひとりが思い思いに過ごしており、日中は窓や戸は開け放され、日当たりや風通しもよく快適で、面会者ともゆったりと過ごせるように工夫をしている。		
<b>37</b> (93	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談しながら、家で使い慣れている家具や好みのものを持ち込めるようにしてあり、家族の写真や仏壇などを持ち込んで、その人らし〈居心地よ〈過ごされている。 重度で点滴の必要な利用者は、介護職員の目が届〈部屋にして、見守り体制を工夫している。		

# 自己評価書

# 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム風花
所在地	〒754 - 0004 山陽小野田市大字山川90 - 1
電話番号	0836 - 71 - 1710
開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日

# 【実施ユニットの概要】 (6月20日現在)

ユニットの名称	風ユニット						
ユニットの定員	9	名					
	9	名	男性	2 名	女性	7	名
ユニットの	要介護 1		4	要介護 4		0	
利用者数	要介護 2		2	要介護 5		2	
	要介護 3		1	要支援 2		0	
年齢構成	平均 8	33.8 歳	最低	76 歳	最高	90	歳

# 【自己評価の実施体制】

実施方法	職員は一ヶ月半前から自己評価に取り組んでいます。自由に具体的な取り組みを書いてもらい、管理者は職員からの質問にその都度答えながら意見交換をしました。それを基に管理者、月リーダーと計画作成担当者がまとめ作成しました。毎年する自己評価は一年間の見直しの機会になっています。
評価確定日	平成 21 年 7 月 22 日

# 【サービスの特徴】

日々の生活の中で、利用者様の何気ない一言・しぐさ・表情を汲み取り、職員が 共有し今年度の目標である「気付きを築いていく」ことでお一人お一人のご要望が 活かされるように生活を送って頂いています。

職員の思い込みで間違った介護をしないようにと外部から介護アドバイザー青山幸広先生を招いて4つのポイント「1.姿勢(向き合う心)2.空間(安全・安心・清潔)3.タイミング(時)4.相性」で"心が体を動かす"ことを学び、介護技術の向上と職員の意識向上に努めています。

年二回のアンケートの実施や、ご家族がケアカンファレンスに参加されることでご 意見やご要望を知り、ご家族のお気持ちを汲み取り共有することに努めています。 アンケートの結果は集計し具体的な改善方法を毎月の風花メールにも掲載し、ま たお写真にコメントを入れて様子をお知らせする等幅広くご家族に報告していま す。

朝起きたら利用者様同士が「お早うございます」と挨拶を交わされ一日が始まります。昔ながらのご近所付合いのようで心が和みます。リビングにはそれぞれお気に入りのソファーや居場所があり、気の合う方と話をされたり、外にはパラソルを広げのんびり出来る広いデッキがあり、職員は仲間作りのお手伝いをしています。誕生会では「皆から祝ってもらって嬉しい。長生きもいいね~。」と、いつも一緒の利用者様と手を取り合って涙されることもありました。また、面会者が多くおられることも特色です。新幹線厚狭駅の開設十周年記念行事に出店参加した日は季節外れの雪が降る中でもお元気にお餅を丸め「お餅はいりませんか。美味しいですよ。」と大きな声で呼び込みをされ、皆で一緒についたお餅はあっという間に完売しました。住み慣れた場所で地域の一員として活躍される場面が多々あります。

医療連携の体制があり利用者様の日常的な健康管理・医療が必要となった場合の適切な対応もとれるようになっています。月に一回の健診は提携医院まで無料でお連れし、健康票には健診結果と医師のコメントを入れ請求書と共にご家族へ郵送する等して利用者様の健康状態についてお知らせしています。また、高齢となられ体調の心配な利用者様は、ご家族・相談員・管理者等と何度も話し合う機会をつくる事で安心して頂いています。

医療法人 健仁会 ケアの4つの柱 横に座る その人を知る 嘘をつかない ゆっくりと穏やかに

# 自己評価票

_								
	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)				
	. 理念に基づ〈運営 1. 理念の共有							
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし〈暮らし続けることを支えてい〈 サービスとして、事業所独自の理念をつ〈りあげてい る。	地域密着型グループホームの取り組みとして「皆に優しく、共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活できる・・・。 ノーマライゼーションのまちづくりの実践を皆で考えグループホームの理念とした。						
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向け て日々取り組んでいる。	毎月発行の風花メールや書類等に理念やケアの4つの柱を入れ、理念を明確にし運営理念から外れないように会議で話し、理念の実践に取り組んでいる。ユニット会議の前に全員で唱和、又名札の裏に明記して業務前に見るようにしている。新卒職員・途中入社職員の研修時にも理念についての話がある。						
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に 示している。	玄関ホールやユニットに掲示し、ご家族や来訪者に理解してもらえるようにしている。業務日誌、風花メールに掲示し施設内研修などで取り上げ管理者と職員は理念を共有し日々のケアに活かしている。						
4		ユニット会議に出席し、理念のもとにケアの方向を示している。インシデント・アクシデント・行事計画・報告書等、目を通して助言している。グループホーム部会会議・接遇委員会で指導し職員全員と 共に取り組んでいる。						
5	LD   -   -   TD   -   -   -   -   -   -   -   -   -	家族会のおり、ご家族との話の中で生活について話題にあげている。介護教室に出席されている地域の方々ともお話している。運営推進会議に出席のご家族・市の職員・民生委員・自治会長・老人会・消防署・警察署・医師・他施設の施設長・介護支援専門員の方等に地域の中でその方らしく生活する大切さについてお話している。地域の自治会長さんにホーム便り(風花メール)の回覧をお願いしている。						
2	. 地域との支えあい							
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	施設行事のご案内、畑で採れた無農薬の野菜をご近所へお届け、彼岸法要やどんど焼きに出向いたり等、地域との交流が出来ている。散歩中も気軽に声かけして頂いており、同じ自治会にある和風喫茶に三ヶ月に一回程度行っており利用者様を名前で呼んで頂ける関係づくりができている。						
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治 会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の 人々と交流することに努めている。	しおん祭、ピアノコンサートなど地元のボランティアの方が沢山来て下さる。風花メールを公民館・市役所に配布し普段の様子を見て頂けるようにしている。毎年、小学校や保育園から運動会のご案内があり競技にも参加されている。又、お寺の行事にも行き門徒の方との交流があり奉仕作業も一緒に行っている。地元のお大師様参りには多くの方から声をかけて頂いている。地域にある神社の清掃に月1回参加してい						
8	- 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や 力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないが話し合い、取り組んでいる。	毎月1回介護教室を開催し地域の方々に認知症高齢者の理解や関わり方について勉強している。又、ヘルパー実習の受け入れや地元の中学生の体験学習、高校教師の研修の場になっている。運営推進会議を通して民生委員や自治会の方からも独居老人の方の関わりについて相談を受けている。						

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3	. 理念を実践するための制度の理解と活用		<u> </u>	
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を 実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改 善に取り組んでいる。	全員で自己評価に取り組み現状の課題を一ヶ月かけて選出し、会議の議題として改善に向けて取り組みケアの質の向上に努めている。外部評価の結果は毎月発行の風花メールでご家族にお知らせし運営推進会議でもお伝えしている。全職員に前回の評価の結果を回覧や会議で伝え、具体的に出来ているところ、良かったところ等を話し合い今後の改善案を出し合った。		
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回開催し利用者様の状況や生活の様子・行事等をパワーポイントや資料で報告している。ホームの見学もして頂いて参加者からの質問には直ぐにお答えしている。 食事の味付けやゼリー食についての質問が出た時は管理栄養士がお答えする等の対応に努めている。外部評価の結果報告・防災・施設見学を行うなどして意見交換して利用者様の生活を理解していただけるようにしている。		
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き 来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上 に取り組んでいる。	地域ケアマネ会議に法人の代表・ケアマネ等多数が参加している。又、ケアマネ協議会があり地域包括支援センターや高齢福祉課の職員と共に医療や介護のあり方について研修している。必要に応じて指示・指導を受けている。職員も地域のグループホーム勉強会に参加している。		
12	見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、管理者は外部研修で学んでおり、資料をいつでも見られるようにスタッフルームに置いている。職員は法人の老健基本介護研究会や資料で制度の理解に努めている。ご家族には必要に応じてこの様な制度があることをお伝えしている。		
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について 学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待 が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努 めている。	研修の参加や法人内の指導員により勉強会があり、意識して防止に努めている。言葉使いも含め虐待につながる行為が行われていないか、職員間で確認しあっている。接遇委員会の勉強会では、職員全員がロールプレイングを実施し、実践されているかを委員によりチェック、評価をしている。マニュアルがある。グループホーム独自の勉強会もしている。		
4	. 理念を実践するための体制		-	
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族 等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・ 納得を図っている。	管理者や法人相談員が中心となり重要説明事項・契約書・パンフレットを見て頂きながら丁寧に説明し、質問を受けながら疑問点や不安などの相談を受け、理解・納得を図り同意を得ている。退去時の敷金精算もしっかり説明し納得して頂いている。		
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに 外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映さ せている。	日々の会話の中で、利用者様が思っている意見や不満を汲み取ることが出来るよう 意識している。又、申し送り時や会議の際に話し合い、運営に反映させている。契約 時に公的な苦情相談窓口もお伝えしている。意見や希望は家族会・ケアカンファレ ンス・面会時等に和やかな雰囲気で自由な意見交換で出来ている。要望などがある 場合は直く会議をし改善案を出し合い、気持ちに応えらる様にしている。		
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族会や面会時に個人記録やご家族との連絡ノート、アルバム等を見て頂きお伝えしている。請求書郵送の際に、風花メール・出納簿の写し、健康診断結果表に医師のコメントを書き入れ一緒に郵送している。必要に応じてリーダーや担当者、医師が電話でも報告している。各居室にも写真を沢山飾って日常の様子を面会時に見て頂けるようにしている。写真は担当が季節にあわせ随時変更している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	個人記録や出納簿等全ての書類を要求に応じて代理人に開示している。外部評価結果·契約書·重要事項説明書·推進会議議事録等も開示している。		
18 (8)	せているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及ひ	事業所に要望・相談窓口を置き、第三者委員も設けている。玄関には要望箱を設置、契約時には公的機関もお知らせしている。ケアカンファレンス・面会・家族会等は意見を聞く良い機会となっている。必要な方にはご家族との連絡ノートを利用し意見をおききする機会を設け、速やかな対応を心がけている。アンケートでのご意見・要望を検討し、お出掛けが少なく風花メールにも載らない利用者様のご家族にポストカードに笑顔の写真、コメントを書き請求書と一緒に送るようにした。アンケートでお答え頂いたは内容は職員の見直しにもなっている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りや月2回のユニット会議において、職員の意見を聞く機会を設けている。リーダーは職員から意見や提案があった場合、管理者や代表に報告し、運営会議やグループリーダー会議等で議題にあげ反映させている。		
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の状況の変化・看取りの時にはご家族の要望に応えられるように勤務の調整が出来ている。又、法人内のグループホーム職員の応援もある。緊急時は管理者や近くに住む職員の協力もある。		
21 (10)	援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に	法人下のグループホーム間での異動はあるが馴染みの関係を保 つ為必要最小限にしている。家族の都合や結婚などで離職がある 場合には不安にならないように状況に応じて説明している。又、新 しい職員には重複勤務(夜勤3回)を行い馴染みのある職員と一緒 に関わり利用者様が安心して暮らせるように配慮している。		
5	. 人材の育成と支援			
22 (11)	めの計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人や途中入社研修のマニュアルを作り指導している。法人では月2回の老健基本介護研究会や月1回のグループホーム独自の勉強会を実施しており、職員は積極的に参加している。又、外部研修の機会も多くあり研修後は速やかに勉強会に取り入れ職員全員が理解出来る様にしている。全国的に有名な青山幸広先生による実技講習にも参加したり、グループホームに直接来ていただき具体的な指導を受けケアの質の向上に取り組んでいる。		
23		20代から50代まで幅広い年代の男性、女性職員を配置し利用者 様に柔軟な対応が出来る様にしている。月リーダーや多くの役割を 分担することで職員の質の向上に努め利用者様の要望に対応して いる。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する 機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域にグループホーム協議会やケアマネ会議があり、施設見学や 勉強会・交流会に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。 運営推進会議の際、近隣のグループホームにも参加頂き情報交換 も行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための 工夫や環境づくりに取り組んでいる。	悩みを職員 リーダー 管理者 代表の流れで吸い上げ問題点の把握・ 改善に努めている。ノー残業を目指し疲労を残さずストレスの軽減に取り組 んでいる。又、懇親会等を行いストレスの排出の場としている。利用者様と 一緒に外食などをすることで気分転換になっている。公休希望も聞いてい る。		
26	0) C ( 13)	就業規則がある。全員で請求業務等や月当番・会計等の役割を分担し、担当となることで自信や向上心に繋げている。会議のおり月リーダーが進行役となり職員が発言しやすい雰囲気にしている。行事計画等も発案が沢山出ている。法人内で発表の機会もありテーマ「気付きに築〈」に沿ってグループホームは「おむつはずし」に取り組んでいる。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者 や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に 努めている。	グループホームの人材として、人間として、家庭人として、優れた人が望ましいと考え一人ひとりの能力を見極めて業務にあたっている。能力に応じた報酬とやりがいのある職場づくりに努めている。		
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機	入居前に面談の機会を設け、お茶を飲んだり話をしたりして利用者 様の思いを聴き、利用するにあたっての不安を解消するように努め ている。又、体験をされ雰囲気に馴染んで頂くことで不安の軽減に 努めてる。		
29	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、	施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応している。管理者、リーダーは相談員と調整してご家族の思いを聴く機会を早くから設け、その思いを受けとめられるよう連携している。見学される方もいる。		
30	としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた	ご家族・法人相談員・ケアマネ・管理者が連携を取り、現在どういう状況であり何の支援が必要なのか話し合っている。又、生活の場所としてはグループホームの利用がいいのか、老健なのか在宅での支援はどうか、ショートスティ等、他のサービスの情報も提供している。		
31 (13)		入居前にご家族と一緒にホームで過ごして頂き、利用者様とお茶を飲みながらお話をしたり、庭に出てゆっくりしたりして雰囲気を体感してもらうことにより馴染めるように工夫している。居場所作りや仲間作りを一緒にすることに努めている。		
2	. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	22		
32 (14)	緒に過ごしながら喜怒克楽を共にし、本人から学んだ	生活を共にするとはどういうことなのか日々の関わりの中で常に意識して支えあう関係を築いている。認知症になられても「個性」「出来ること」「教わること」が沢山あると知り、利用者様から白菜漬け・味噌作り・梅干作りや料理の味付け等教わりながら共に支え、支えられる関係づくりが築けている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33		風花メールやアルバム・居室のコルクボードに飾ってある写真等から日常の様子を見て頂いたり、日々の暮らしの出来事や気づいた事を細やかに報告しご家族との関係を築き一緒に本人を支えていくようにしている。面会時に繰り返し要望や気付きを伺っている。		
34	い関係が築いていけるように支援している。	入居前の面談や家庭訪問時にご家族との関係等をお伺いし、どんな支援が必要か職員間で検討、入居当日から個々に適した支援が出来るように努めている。面会時には居室でお茶を飲んだりしてゆっくり過ごして頂く機会を作ることによってより良い関係が築いていけるように支援している。行事の参加も声かけし一緒に楽しんで頂いている。		
35	CONTRACTOR CONTRACTOR CONTRACTOR	入居前から親しくされていた方の訪問もあり、和やかな時を過ごされている。又、行きつけの美容室に行かれたり、お里帰りを援助し、馴染みの人との関係が途切れないように努め、利用者様の思いに添えるように支援している。外出・外泊・面会はいつでも良い事を伝えている。		
36	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めて	男性同士ということで、高齢の男性利用者様の髭剃りなど進んでして下さったり、体調不良や介助の必要な方に対して気づかいをして下さる利用者様がおられる。職員からもお願いすることで生活のハリになっている。利用者様同士の仲間づくりや場面づくりをさりげなく支援している。		
37	必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない	法人内の施設に移られた方のもとへ仲の良かった利用者様と一緒に遊びに行かれたり来られたりしている。入院された際にはお見舞いに行っている。亡くなられた方のご家族がたまに訪問して下さり一緒に思い出話をして帰られている。退去の方には思い出のアルバムを作成しお渡ししている。笑顔の写真が沢山あるととても喜んで頂いている。	) [	
	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン . 一人ひとりの把握	' <b>-</b>		
38 (15)	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に	日々の行動や表情に気配りし、会話中に聞かれる思いを聞き逃さないようにしている。自己選択、自己決定できるような声かけに努め、意思の疎通が困難な利用者様にも表情や何らかのサインを見逃さないようにしている。伝えることが困難になられる前にケアの4つの柱の一つ「その人を知る」ことに努めている。		
39	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	面会時、家族会、ケアカンファレンス等の機会を利用して今までの 生活環境や生活歴をご家族から聞ける範囲でお伺いしている。 個々の情報を捕らえ寄り添い表を活用し、ケアに連動させている。 聞きづらいことは十分配慮してお聞きしている。		
40		個人記録に一日の過ごし方を詳しく記載し、生活リズムが分かるようにしている。生活記録、連絡ノート等からも現状把握が出来ている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)				
2	2.本人がより良〈暮らし続けるための介護計画の作成と見直し							
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスに利用者様とご家族に参加して頂いている。希望や要望を聞くことでニーズを明確にしその方らしく暮らして頂ける介護計画を立案している。ご家族に介護計画を分かりやすく説明している。サインと印鑑を頂いている。						
42 (17)	りのでは、います。 し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、 家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している。	期間に応じてモニタリングを実施。ケアの見直しや評価を行うと共に、新たな変化があった場合は随時要望をお伺いし変更している。ユニット会議で状況や意見等を共有、確認し見直しを行っている。必要に応じて医師、管理栄養士にも指導を受けるなどしてモニタリングしている。利用者様・ご家族の希望がブランに反映しているか、支援できているか等が直ぐ分かるように色分けをしている。						
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計 画の見直しに活かしている。	個人記録・生活記録・連絡帳等に細かく記録し情報共有ができている。個人記録は 利用者様の言葉をそのまま記入して介護計画の見直しに活かしている。ご家族の要望が適切に実行されているか一目でわかるように色分けをしている。月1回評価、反省を行い記録している。記録物は出勤時に必ず目を通すようにしている。						
3	. 多機能性を活かした柔軟な支援							
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業 所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様やご家族の希望により生家へお連れしたり、墓参りや選挙にも行って頂いている。他科受診の付き添い等をしている。24時間医療連携も実施しており状況の変化に直ぐ対応できる体制があり、その都度必要なことを支援している。月1回の健康診断は無料でお連れしている。						
4	. 本人がより良〈暮らし続けるための地域資源との	協働						
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら 支援している。	公民館や文化会館での催し物等は利用者様の意向や趣味などに応じて 援助している。地域のふれあい祭りに出店参加したり、法人祭りには多くの ボランティアの協力がある。運営推進会議で民生員・保育園園長・警察署・ 消防署・老人会や近隣のグループホームを招き連携を深めている。						
46	開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	毎月1回介護教室を開催しており、多くの相談を受けている。中学生の体験学習、高校教教師の体験研修、ヘルパー実習等を受け入れている。ご家族からも畑の世話や草抜きのお手伝いがある。運営推進会議で認知症の理解や関わり方について自治会長や老人会の方から相談を受けている。						
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用者様やご家族の意向で、移動美容室や歯科医師や衛生士の 訪問治療や口腔ケア等受けられている。法人内での行事や催し 物、介護教室にも参加されている。						

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		地域包括支援センターの職員とは運営推進会議にて関係が強化され、ご家族への助言や相談協力が得られるようになった。そこの管理栄養指導員も来られ管理栄養士とコミュニケーションを図っている。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回法人のクリニックで定期健診を受けている。又、入居前からのかかりつけ医(眼科・歯科・耳鼻科・精神科等)にご家族と協力して通院介助、情報伝達をして適切な医療が受けられるように支援している。定期健診に行くことが難しい利用者様には在宅総合診療を行っている。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、 職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や 治療を受けられるよう支援している。	理事長が認知症の専門医で支持や助言が直ぐに受けられてる。又、クリニックにはCTもあり適時に検査している。風花メールには医師より認知症についてのコメントも掲載されており、認知症の啓蒙に努めている。必要に応じて、ご家族同意のもと一緒に精神科受診もしている。		
51	るいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	グループホーム職員に看護師がいる。休みの場合は老健の看護師の協力があり、健康管理・状態変化に早期対応している。1週間に1度法人の看護師が訪問し利用者様の日頃の健康状態を把握し医師との連携をとっている。		
52	できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場	入院時には利用者様のサマリーを作成し職員からも病院等に様子をしっかり伝えている。認知症が進まないように早期退院に心がけている。相談員を通して主治医やご家族と相談している。場合によっては、法人の介護老人保健施設でリハビリを受けてホームへ復帰されることもある。入院中は度々お見舞いに行っている。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医 等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族と共に看取りをしている。在宅総合診療があり看取りの為の24時間体制も整っている。状態の変化があるごとに、早い段階からご家族・医師・看護師等と話し合いの機会を幾度ももち意思の確認をしている。職員はご家族の思いに添える支援に心がけている。地域のお寺からご住職が来て下さるなどの支援もある。終末期の指針・対応マニュアルがある。		
54	かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	管理栄養士の指導を受け、最期の時まで尊厳を保ち出来る限り口から食べ物を摂って頂く「ワンスプーン」に努めている。状態の変化に合わせ医師・看護師と24時間体制で連携を取りながら随時適切な支援をしている。利用者様との時間を大切に考え、ご家族に泊まって頂ける体制も整えている。管理栄養士からもアドバイスを受けている。看取りの際はご家族の宿泊もできる体制である。有料で食事もお出ししている。		
55	む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な	入居時より法人の相談員が関わるので法人内での移動にはご家族も安心しておられる。他の施設や病院へ入院される時には、アセスメントシート・サマリー等を早めに作成し情報交換を行っている。 移動後は担当や馴染みの職員が尋ねていくことでダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
プライバシーの確保の徹底   一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉   (21) かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしてい   ない。	プライバシー保護のマニュアルがあり見直しもしている。ボランティアや実習生の受け入れ時にも説明している。ご家族には契約時、室名札や写真掲載許可の署名を頂いている。記録物は所定の場所に保管し、代理人の方のみにしか公表していない。接遇委員会もあり節度のある言葉使いや日頃から職員全員で取り組んでいる。		
利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	外出や入浴等でも利用者様が自己決定できるような声かけに努めている。 献立やおやつ、飲み物等お好きな物を用意し選んで頂いて利用者様の希望が聞きだせるようなコミュニケーションをとっている。		
"できる力"を大切にした家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補 充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者 の"できる力"を大切にしながら支援している。	利用者様が出来る力を見極め、生活の中に取り入れさりげなく支援している。得意とされていることを把握し、主役となって頂く機会を作り生活支援に努めている。又、利用者様から教わりながら味噌(らっきょう・梅干等も作り毎日の食卓に上がっている。畑で無農薬の野菜を育てている。日中、居室にて横になっておられる利用者様は海苔巻きが得意なので献立に取り入れ作って下さっている。その時は昔を思い出され懐かしそうにお話をして下さる。献立の中にのり巻きの日を取り入れ作って頂く事で活躍の場を作っている。		
159 田々のその人らしい暮らし 159 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 (22) ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご家族や利用者様に好きな食べ物や得意とされる事、生活習慣を伺っている。得意とされているぬり絵、習字、縫い物もされている。個々のペースに合わせ起床時間や入浴時間、、大好きなテレビ番組を見られたり、読書や昼寝をしたりと自由に過ごされている。好みの新聞をとられスクラップ帳に気になる記事を貼ることを楽しみにされている利用者様もおられる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活	<u>.</u> 活の支援		
<b>身だしなみやおしゃれの支援</b>	服装については利用者様の好みもあり選ばれている。汚れや重ね着等で援助が必要な場合は、誇りやプラパシーに配慮しながら支援している。ご家族から外出用として季節に合った服や帽子等を用意して頂き、その方らしい身嗜みを支援している。馴染みの美容室に行かれる方以外は、移動美容室を利用されカット・カラー・顔そり等されている。ユニットで職員による美顔を楽しまれ、特別な日にはお化粧をされる利用者様もおられる。		
食事を楽しむことのできる支援 61 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや (23) 力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食 事、片付けをしている。	食事の時に担当が横に座り、会話の中から食べたい物がないか伺い一緒にスーパーや地域の新鮮市場に買い物に行き、料理を教わりながら作っている。昼食は厨房より配食があり、時には利用者様のご希望を伺い厨房の職人が目の前で作る出張料理(利用者様の目の前で天ぶら、にぎり、鯛の活き造り等)があり出来たてで美味しい料理を食べて頂いている。、パイキング方式でお好きな物を選んで頂いたり、回転寿司等にも行かれている。毎日片付けは一緒にしている。		
めるよう支援している。	一緒に買い物に行きお好きな物をご自分で買われている。「美味しいものを食べに行きたい」と希望があれば好物のパンを買いにパン屋さんへ。うなぎ・回転すし等の外食も個別でしている。飲み物は多数準備し飲みたいものを飲んで頂いている。ケーキやぜんざいを食べに行くこともある。		
<b>気持ちのよい排泄の支援</b>	排泄パターンを把握し、1回でも多くトイレで自力排泄が出来るようにオムツ外しに取り組んでいる。例えオムツになられてもパットなどを工夫することで最期まで尊厳のある生活が送れる支援に努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわすに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	人浴時間は14時からとしている。寝る前に入浴される方もいる。気の合う方と2人での入浴、法人内にある露天風呂も利用して楽しまれている。いつも一番風呂を希望される利用者様には一番に声かけしている。好みの温度に合わせゆっくり入浴して頂いている。足浴を毎日されている利用者様もおられる。ご家族面会時、背中を流してもらわれる事もある。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、 安心して気持ちよ⟨休息したり、眠れるよう支援してい る。	個々の状況に応じて休憩や昼寝等自由にして頂いている。夜「眠れない」と起きてこられる利用者様の話し相手になったり、「お腹がすいた」と言われたら軽い食べ物やホットミルク等をお出しして眠れるように支援している。		
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひ とりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、 楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様の生活歴を踏まえ、コンサート・展覧会・習字展・押し花展等文化的な生活を支援している。又、法人の習字展に出展や春祭りには押し花作品を出展されている。料理や野菜作り等利用者様に感謝の言葉を伝えながら教えて頂いている。花の好きな方は庭に咲いた花や、ご家族が持ってこれた花をリピングに飾って下さっている。お寺行事・お祭り・季節の花見に行っている。歌の好きな方にはカラオケを楽しんでもらっている。	1	
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持 したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る利用者様はご家族と相談し、個人で持って頂いている。希望を伺い自動販売やスーパーに買い物に行く機会を作りご自分で支払いの出来る支援をしている。自動販売で好きなジュースも買われている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日 の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援してい る。	買い物・ドライブ・外食・四季の花見(桜、ツツジ、紫陽花、菖蒲、バラ、コスモス、梅)など頻繁に外出の機会を支援している。車椅子やリクライニング車椅子の方もリフト車を利用し外出できている。車酔いで外出遠出が無理な利用者様には周辺の散歩にお誘いし、季節の風を感じて頂いている。		
69	<u>普段行けない場所への外出支援</u> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族会で日帰り旅行や一泊旅行をご家族と共に楽しまれている。 職員と大好きな温泉に行ったり、パンレットを見て舞踊やピアノコンサート等にも出かけおられる。 ご家族とお弁当を持ってツツジ見学や紫陽花見学、ドライブや外食にも行かれている。	١	
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙の やり取りができるように支援をしている。	玄関に公衆電話があり自由にかけられている。遠くにおられるお子様へ葉書を出される時には出来ない部分をさりげなく支援し、思いにそえるようにしている。ご家族からの返事を楽しみにされ届いた返事を嬉しそうに見せて下さる。外出の際にポストに投函されている。		
71		ご家族や親族、知人の方が気兼ねなく面会に来られるように、職員 は気持ちのいい挨拶・節度ある姿勢で訪問し易い雰囲気作りに努 めている。居室や談話室・リビング等お好きな場所でお茶を飲みな がらゆっくりと過ごせる環境にも配慮している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、 居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊はいつでも希望に応じることが出来る事をお伝えしている。今までにも泊まって付き添いをされたご家族がおられる。ソファーや飲み物などを準備して気兼ねな〈一緒に過ごせる環境を作っている。 有料で食事をお出ししている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を 取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年4回の家族会は一月の風花メールに開催月や内容を予告として載せている。又、祝日や休日で計画し参加しやすくしている。毎年、孫・曾孫様と一緒に参加して下さるご家族もあり、賑やかで楽しい家族会になっている。誕生会にも多くの方が参加して下さっている。 秋のしおん祭も一緒に楽しんでいる。		
	薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく 理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり勉強会などで職員全員が理解し、どんな場合でも拘束はしないことに努めている。語尾が強くなると抑制的な言葉に聞こえてしまうので、接遇委員会より言葉づかいや基本となる挨拶の姿勢・語尾・二言言葉・オウム返しの方法など具体的な指導がある。職員全員が実地指導を受けている。一年目、二年目研修がある。ユニット会議でも議題としてあげている。		
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関、門扉は開けており利用者様の自由な暮らしを支援している。リビングから利用者様に危険が及ばないように見守りを行なっている。歩行不安定な利用者様にはさり気なく寄り添い、帰宅願望のある利用者様には、気配の察知や所在確認を職員間でしあっている。庭やデッキに自由に出ることで気分転換になっている。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	状況をさり気なく察知し、所在確認と安全に配慮している。居室やトイレに入られている時や排泄介助の時も声かけや、声のトーン等にも気をつけプライバシーに配慮している。 夜間は状況が把握し易い場所で業務を行い見守りしている。 歩行にふらつきがある利用者様の居室入り口ののれんに鈴をつける等の工夫をして安全に努めている。		
77	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人	個々の状態に合わせ物品のお預かりをしている。夜間は台所の包丁や洗剤は鍵のかかる場所に置いたり、薬は手の届かない場所に保管したりと工夫している。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための 知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に 取り組んでいる。	月に二回ある法人の老健基本介護研究会で学ぶ機会があり、職員全員が事故防止 や迅速な対応ができるように学んでいる。インデント・アクシデントを活用し職員間で もリスクについて確認し合っている。マニュアルがあり誤嚥の対応として職員に実習と テストがある。年2回消防訓練がある。運営推進会議でAED設置施設である事を伝え 地域の拠点となっている。		
79 (30)		急変や事故発生時のマニュアルがある。救命講習がありAED操作の説明も受け、職員全員が体験、習得できるようになっている。緊急連絡網があり日頃より伝達訓練を実施、24時間体制で医師や看護師と連携が取れるようにしている。		
80	た時には、事故報告書や"ヒヤリはっと報告書"等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じてい	その都度インシデント・アクシデントで報告し直ぐに改善策をリーダーが指示している。報告書を回覧して情報を共有している。三ヶ月に一度ユニット会議で議題にあげ再発防止に向け再度検討している。法人のリスクマネージメント委員会などでも取り上げ具体的に指導がある。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	大人にもん、小百寸の人百時に、三人を同りすが川	年2回、火災や地震の避難訓練を消防署・利用者様と一緒に怪我を想定し担架役と 運ぶ役にわかれ怪我人の処置等の指導を受けた。消火器は誰でも操作できるように 訓練している。避難経路の確保や、怪我等を想定した処置方法も実地指導を受けて いる。運営推進会議の時に話題にあげ協力を呼びかけている。		(すでに4次版70でいることも自む)
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	契約時に転倒・誤嚥・離苑等のリスクについてお話している。 面会やケアカンファレンスの時だけではなく、状態の変化がある時には随時連絡を取り合い、おこり得るリスクについて説明し理解頂いている。 その方らしく生活できるようにご家族と一緒に対応策を考えている。		
( 5	) うその人らしい暮らしを続けるための健康面の支持。			
83	<b>  体調変化の早期発見と対応</b>   一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調確認のためバイタルチェックを行い異常があれば直ちに看護師や医師に報告して指示を受けている。必要に応じてクリニックの受診や他科受診している。利用者様の日頃の様子や気付きは職員が情報を共有できるように連絡帳を活用している。		
84 (32)	症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬は必ずお一人ずつ手渡しし、確実に飲まれたか最後まで確認している。月2回の薬剤管理指導で薬剤師より薬の効能・副作用・用法などの指導を受けている。状態の変化がみられた時は医師に状態を伝えて見直しをしている。常に医師・看護師・薬剤師と連携をはかっている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b>   職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と   対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きか   け等に取り組んでいる。	野菜や繊維質の多い物、乳製品等をメニューにとりいれている。栄養管理指導時に管理栄養士に相談しお一人おひとりに合ったアドバイスを受けている。お手伝いや散歩等、適度に体を動かす機会をつくることで便秘予防になっている。		
86 (33)		食後や入眠前に歯磨きの声かけをしている。又、困難な利用者様には義歯の洗浄や口腔ケアを支援し清潔保持に努めている。曜日を決め義歯の洗浄液につけている。歯科医師による義歯の調整や歯科衛生士による口腔ケアを受けられる利用者様もおられる。肺炎や病気の予防、ADLの向上に努めている。歯ブラシを月に1回交換している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確 保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた 支援をしている。	月に2回管理栄養士による指導を受け食事の偏りがないようバランスのよいメニューを考えるとともに、毎日の食事・水分摂取量を記録し医師にも相談・指導を受けている。一人ひとりの状態や燕下能力、習慣に応じた支援をしている。一日1,400カロリーの食事を目標にしている。体重測定を月に1回実施しており体調の変化の一つの目安にしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行 している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロ ウィルス等)。	感染マニュアルがある。法人の勉強会でも度々取り上げられ職員全員が手洗いや消毒を実施している。インフルエンザ流行時には、玄関でご家族にも消毒やマスク着用の協力をして頂いている。職員・利用者様・面会ご家族と新型インフルエンザの流行を想定し、施設の入り口を1ヶ所にして玄関には係りをおいてマスクの着用と消毒を呼びかける訓練を実施した。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の 使用と管理に努めている。	布巾の消毒は毎日しており、食材の賞味期限チェックは随時行っている。冷蔵庫を過信しないようにしている。冷凍も必要以上にしないようにし日付を入れている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり )居心地のよい環境づくり			
90	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工	ホーム周辺は生垣であり、花壇や鉢には様々な花を植え景観に配慮している。ベンチも置き利用できるようにしている。夏には緑のカーテンとして、あさがおを植えている。垣根越しに散歩されている方から声かけして頂いている。		
	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	明る〈広々としたリビングには暖炉があり絨毯がひかれている。ソファーには仲の良い方々が〈つろがれている。天気の良い日にはデッキにパラソルをひろげて日光浴を楽しまれている。絵画や本棚、インテリア等にも配慮し文化的な生活支援を行なっている。中庭を囲む部屋は、竹の葉を揺らす風の音が感じられる。障子を通して月や陽の光を感じて頂いている。		
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫を している。	リビングには仲の良い方同士でゆっくり過ごせるソファーがある。のんびりと過ごされるお気に入りのソファーもあり新聞を読みながらうとうとされている。居室前には談話室があり思い思いに過ごされている。座りなれた椅子にはお気に入りの座布団を敷きリラックスされている。笑い声もよく聞かれる。快適で心地よい場所作りを目指し細やかな心遣いに努めている。		
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族に相談し利用者様と一緒に居室作りをお願いしている。自宅で使っておられた家具・道具・アルバム・テレビ・鏡台などを持ってこられている。 掛けてあるカレンダーには面会予定の日や楽しみ事を記してある。面会時に〈つろげる家具や畳が置いてある。		
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮 し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除の時や天気のいい日は窓を開け換気している。職員が臭いを 感じたら徹底して臭いの元を探っている。所々に備長炭を置き防 臭に努めている。空気の流れを作っている。		
( 2	!)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全	利用者様が安全に過ごせるようにバリアフリーになっており、廊下やトイレには高さや握り易さに配慮した手すりがある。リビングや廊下・居室の床材は滑り難い物にしている。車椅子方用に広く動きやすいトイレがある。居室は引き戸になっている。		
96	<u>わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防 ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱状態時は安心につながる対応をユニット会議で話し合っている。室名 札やトイレの表示を大きくする。そっと寄りそう等さり気なく援助している。利 用者様に恥をかかせない・尊厳を傷つけないよう、声の大きさや言葉使い に注意している。リビングに日めくりカレンダーがある。		
97	できるように活かしている。	花壇や畑があり花の世話や野菜作りなど得意とすることを楽しく活動できるようにしている。 広いウッドデッキががあり、日向ぼっこやリビングのテーブルを持ち出して、心地よい外の風を感じながら食事をしたりすることもある。 庭には数種類のなり物の木があり収穫を楽しみにされている。		

	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
	サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴 んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない	
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない	
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	( ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない	
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や 姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない	
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない	
	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な〈過ごせている。	<u>ほぼ全ての利用者が</u> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない	
104	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない	
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。	<ul><li>ほぼ全ての家族等と</li><li>家族の1/3くらいと</li></ul>	家族の2/3くらいと ほとんどできていない	
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 人々が訪ねて来ている。	(ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない	
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者と のつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応 援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない	
108		<u>ほぼ全ての職員が</u> 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない	
	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない	
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむ ね満足していると思う。	( ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない	

# 自己評価書

# 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム風花
所在地	〒757-0004 山陽小野田市大字山川90-1
電話番号	0836-71-1710
開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 (6月20日現在)

ユニットの名称	花ユニット							
ユニットの定員	9	名						
	9	名	男性	0	名	女性	9	名
ユニットの	要介護 1		1	要介護	4		3	
利用者数	要介護 2		2	要介護	5		1	
	要介護 3		2	要支援	£ 2		0	
年齢構成	平均 8	39.4 歳	最低	82	歳	最高	99	歳

# 【自己評価の実施体制】

実施方法	ユニット会議でリーダーから自己評価の説明をして、意義を理解したうえで一ヶ月半前から取り組み始めました。職員が記入したものを管理者や月リーダーがまとめて、サービスの方針を明確にし見直しとして職員には回覧で見てもらいました。毎年する自己評価は基本に戻るきっかけとなるため、サービスの質の向上にもなっています。
評価確定日	平成 21 年 7 月 22 日

# 【サービスの特徴】

日々の生活の中で、利用者様の何気ない一言・しぐさ・表情を汲み取り、職員が 共有し今年度の目標である「気付きを築いていく」ことで明るくのびのびとした生活 をお一人お一人が送られています。職員の思い込みで間違った介護をしないよう にと外部から介護アドバイザー青山幸広先生を招いて4つのポイント「1.姿勢(向 き合う心)2.空間(安全・安心・清潔)3.タイミング(時)4.相性」で"心が体を動か す"ことを学び、介護技術の向上と職員の意識向上に努めています。

年二回のアンケートの実施や、ご家族がケアカンファレンスに参加されることでご 意見やご要望を知り、ご家族のお気持ちを汲み取り共有することに努めています。 アンケートの結果は集計し具体的な改善方法を毎月の風花メールにも掲載し、ま たお写真にコメントを入れて様子をお知らせする等幅広くご家族に報告していま す。

でユニットは面会に来られるご家族がとても多く、ご家族同士が親しくなられ昔話や女学校時代のアルバムを見ながら話が弾み和やかな雰囲気で過ごされています。また、年四回の家族会でも多くの出席を得てご家族が進んで行事の進行をされます。日課の散歩コースの神社には月一回掃除道具を持ってお参りをされたり、顔なじみの近所の方が声をかけて下さったり、お向かいにある行きつけの和風喫茶のマスターは認知症に理解があり、利用者様がゆっくりと食事ができるようにと特別席を作って下さいました。雪の舞う中、地域の小学校のどんど焼きに招待されました。すぐ隣で巫女の舞いが始まってもサービスの綿菓子に興味深々。風花に戻られ「美味しかったね~」と、とびっきりの笑顔で話に花がさきました。近隣の文化会館に歩いて行き「みすず・思いやりの歌」あわせてハーモニーコンサートに参加し、普段歌をうたわれない利用者様が歌詞カードを見ながら大きな声でうたわれたりと心和む外出の機会を数多く作っています。

医療連携の体制があり利用者様の日常的な健康管理・医療が必要となった場合の適切な対応もとれるようになっています。健診は当健仁会の医院でし、健康票には健診結果と医師のコメントを入れ毎月の請求書と共にご家族へ郵送する等して利用者様の健康状態についてお知らせしています。また、高齢となられ体調の心配な利用者様は、ご家族・相談員・管理者等と何度も話し合う機会をつくる事で安心して頂いています。

医療法人 健仁会 ケアの4つの柱 横に座る その人を知る 嘘をつかない ゆっくりと穏やかに

# 自己評価票

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	理念に基づ〈運営 . 理念の共有		•	
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし〈暮らし続けることを支えてい〈 サービスとして、事業所独自の理念をつ〈りあげてい る。	地域密着型グループホームの取り組みとして、健仁会の理念に「地域の中でいつまでも自分らしく生活していける」を職員で考え加えた。		
	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向け て日々取り組んでいる。	各書類にケアの4つの柱を明記し、新人研修やグループホーム勉強会でも確認し合っている。時々、代表に会議に参加してもらい理念から外れないように考え方の共有、実践に向けて取り組んでいる。又、2ヶ月に一度ある運営推進会議でもお話し理念の理解に努めている。		
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に 示している。	理念、ケアの4つの柱を書いた物を玄関に設置している。ご家族や来訪者にも分かるようにしている。新卒入社時、途中入社時のマニュアルの中に1番にあげ研修に組み入れている。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	運営者は月に1回グループ部会会議があり、その場で困り事の報告を受け 悩みの相談を聞いている。管理者はユニット会議等に出席し理念の元にケ アの方向を示し、サービスの質の向上にむけ話し合いの場を持っている。 書類等にも目を通して助言している。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議を通じ、市の職員・民生委員・自治会長・消防署・警察署職員・消防団・老人会・公民館館長・他施設の施設長・ご家族・医師・介護支援専門員などにお話させて頂いたり、介護教室に出席された地域のご家族、又家族会の折にはご家族にもお話させて頂いている。グループのホーム便り(風花メール)を地域に回覧している。		
2	. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	近くの神社に散歩に行く時や外に洗濯物を干す時等、近隣の方と挨拶を 交わす等の交流を深めている。又近所の喫茶店にお茶をしに出かけたりし て馴染み客となり、利用者様を名前で呼んで頂けている。地域の市場にも 度々に出かけ顔を覚えてもらっており、勧めの商品などを教えて頂いてい る。		
7 (3)	会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の 人々と交流することに努めている。	月に1回地域のお寺からご住職が法話に来て下さり、こちらからもお寺に伺い掃除やお寺の行事に参加させて頂いている。それをきっかけに仏教婦人部の方と親しくなり運営推進会議に参加して下さるようになった。市のふるさと祭りに参加し餅つき・販売・出店する等交流を深めている。「風花メール」を地域の公民館配布している。		
8	_ <b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や 力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがな いか話し合い、取り組んでいる。	介護教室を月1回開催しており、認知症高齢者についての知識や介護の技術について知って頂いている。近所の寝太郎神社散歩に行った時に月1回程度、草取りや清掃を行い地域貢献の1つとしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3	. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を 実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改 善に取り組んでいる。	職員全員に評価の意義を伝え、皆で一ヶ月かけて自己評価に取り組んでいる。評価の結果を全職員が回覧で確認し、会議で改善点を話し合い、成果が出るように具体案を出し合っている。又、運営推進会議や風花メールにご家族に評価の結果をお知らせしている。	,	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では外部評価の結果や利用者様状況等の報告をし意見交換をしたり、食事会を行い食事について糖尿食や形状の意見も頂いて管理栄養士に伝えている。又、推進会議で出た話題を記録に残しサービスに活かしている。参加された方から台風の際の注意(停電や地域の潅水かん水状況)等たくさんのアドバイスを頂いている。		
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き 来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上 に取り組んでいる。	地域ケア会議に法人の代表、ケアマネ他多数参加している。ケアマネ協議会が市役所であり、地域包括支援センター、高齢福祉課の職員と共に医療・介護の在り方について研修を行なっている。又地域のグループホームの勉強会に参加している。		
12	見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関	外部研修で学んでいる。研修に行った職員は内容をユニット会議等で報告している。法人の老健基本介護研究会でも権利擁護について学んでいる。現在、制度が必要と思われる方はいらっしゃらないが必要時にはご家族にもお伝えできるようにしている。		
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について 学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待 が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努 めている。	研修への参加やグループホーム勉強会・老健基本介護研究会があり、指導を受けている。法人のマニュアルもある。また、ケアにおいては身体的及び精神的に虐待がないように注意を払い防止に努めている。 意識のないままに拘束や虐待、 人権無視になっていないかをグループホーム勉強会で意見交換し確認している。		
4	. 理念を実践するための体制		-	
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族 等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・ 納得を図っている。	契約前にはご家族及び利用者様に見学して頂き、不安や問題点を直接 伺っている。契約に関しては担当者が十分に説明を行い理解・納得を図り 同意を得ている。リスクについても説明している。契約解除の時も利用者 様、ご家族の要望に添うように援助している。		
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに 外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映さ せている。	寄り添いの中で利用者様が何でも話し易い状況を作っている。利用者様の言葉を個人記録に残し想いに気付けるように努力している。又ケアカンファレンスでは、利用者様ご家族にも同席して頂き、自由に意見交換が出来る様な雰囲気となる様落ち着ける居室や談話室を使い雰囲気作りを工夫している。		
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に出納簿や個人記録をお見せし生活のご様子を知って頂いている。毎月、請求書と一緒に風花メールや定期健診の結果に医師のコメントを添えて送っている。風花メールに載らない写真は居室に飾ったり、アルバムに綴り面会時に見て頂いている。又半年に1回出納簿の写しに領収やレシートを付けたものも送っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	個人情報(個人記録・出納簿)は基本的に代理人の方に開示している。代理人以外の方にはアルバムをお見せし、苑での生活のご様子を知って頂いている。		
18 (8)	外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	事業所に要望・相談窓口を置き第三者委員も設けている。契約時に公的 苦情窓口の案内もしている。面会時お茶をお出しする時を、第一の窓口と 考えている。アンケートで意見・要望をお聞きしてまとめ、職員でどのように するか案を出し合い、ポストカードに笑顔の写真や担当職員のコメントを入 れ日常の様子をお伝えするなどに取りくみ始め、ご家族の気持ちに添える 取り組みをしている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回のユニット会議や月1回のユニット合同会議で職員の意見や 提案を話し合い、月1回のグループリーダー会議で運営者に報告、 相談をしている。勤務シフトや個別のケアについて意見や提案を 聞く機会を設けている。		
20 (9)	できるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保す	職員の急な休みや病気の際には応援に来てくれる職員の確保が出来ている。希望休、育休、有休等もあり勤務の調整も出来る。法人へ応援の依頼をすることもある。緊急時は管理者や近くに住む職員の協力もある。		
21 (10)	援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に加える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージ	馴染みの関係を保つ為に異動は最小限とし法人内のグループホーム間での異動しかしていない。新人職員については重複勤務を行なう等、ゆっくり時間を掛けて馴染めるようにしている。担当職員が代わる場合は利用者様の生活歴、家族構成、趣味などをしっかり引継ぎ会話のきっかけ作りにしている。		
5	. 人材の育成と支援			
22 (11)	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確	新卒研修を始めとして中途採用研修、法人の月2回の老健基本介護研究会に参加している。ポイント制があり、出席者、講師にはポイントがつくようになっている。グループホーム独自の勉強会もあり、外部研修にも参加している。法人は看護師・PT・介護支援専門員等の資格取得の助成を行い職員の育成に取り組んでいる。		
23	置することにより、多様な利用者の暮らしに対応して いる。	10代から50代までの幅広い年代の職員を配置し介護職・看護職が連携し、多様な利用者様のニーズに対応している。職員のほとんどが地元在住である為、利用者様と地域のことや昔話ができる。		
24 (12)		地域に県宅老所、グループホーム協議会やグループホーム連絡会があり、施設見学や勉強会、交流会を通じサービスの質の向上に努めている。運営推進会議の際近隣のグループホームをお招きし情報交換を行なっている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための エキャ 環境でプロニ 取り組み でいる	勤務時間内はまとまって休憩が取り難い為適宜休憩時間を取る様に声を掛けている。業務終了30分以内に帰宅するようにしている。リーダーは職員の悩み・相談を聞いている。又、忘年会はストレス発散の場になっている。勤務希望や公休希望については、なるべく取り入れてシフトを組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努 めている。	職員でベアを組み半月毎に全員での取り組み「1. 否定しない 2. オウム返し 3. 無視をしない 4. 自分の気持ちを押し付けない 5. 大きな声と小さな声を使いわける 6. 笑顔 ニコニュ! 7. テレビ・音楽のある環境 8. 利用者との会話を楽しむ,から1つの目標をあげ実践し反省、見直しを行なうことによって向上心に繋げている。月1回ある法人内の研究発表「おむつ外し」に向けてグループホームも取り組んでいる。		
27	運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者	職員一人ひとりのこれまでの経験、能力を活かし適切な仕事をして もらっている。人間として家庭人として優しく優れた人が望ましいと 考えている。応じた報酬と共に、やりがいのある職場作りの環境を 整えるよう努めている。		
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	安かこと、求めていること等を木人自身からよく聴く機	事前面談の時に施設の中の様子や居室を見てもらい心配なことはないか 利用者様の不安を聴く機会を作っている。又、ご家庭からいらっしゃる方に は家庭訪問をする様にしており、お部屋作りにも活かしている。担当者を決 め、話し相手や相談相手になれるようにしている。		
29		入居前にご家族に見学して頂き、どのような場所で生活するのか知ってもらい心配事やご希望などを聴いている。管理者、ユニットリーダーを主としてご家族よりお話を伺う機会を作っている。		
30	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要	利用者様、ご家族からお話を伺い、管理者・ケアマネ・相談員・職員が連携を取り適切なサービスが無理な〈行なえる様努力している。法人施設で入居を待たれている方も多〈、無理のない適切なサービスが受けられるように支援している。		
31 (13)		入居希望の方に利用者様と一緒にお話したり、庭に出たり、おやつを食べたりする機会をつくり馴染んでいただいている。又、季節の行事やお出かけの話をし、楽しみにつながるようにしている。ご家族も見学を気軽にしてもらっている。		
2	. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	2		
32 (14)	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一 緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだ	職員と利用者様という関係ではなく、人と人としての関係を築くことが大切と考えている。利用者様の得意とされることやお好きだったことをご家族から伺い料理や庭の世話等利用者様が主役となられる場面を多く設けている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜	利用者様の日々の暮らしの出来事や気づいたことを面会時や電話で密に報告しながら一緒に考えていくようにしている。ご家族の思いを知り、共に利用者様を支えていける様に努めている。		
34	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族会や誕生会に参加して頂き利用者様とご家族が過ごされる時間を大切にし、より良い関係が築けるように支援している。面会が 負担にならないよう電話などで連絡を取り合い気軽に立ち寄れるようにしている。		
35		馴染みのスーパーや公園行く機会を作ったり、家に立ち寄ったりも している。友人や知人、サークル仲間の方も気軽に面会に来られ 一緒にお茶を飲んだりして頂いている。		
36	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めて	仲の良い利用者様同士は愛称で呼ばれている。仲間作りとして職員が間に入り話しやすい雰囲気作りや皆で一緒に出来ることを提供している。仲の良い方同士で入浴されたり、食事の際に食欲のない方を励ましながら一緒に食べられており、支えあえる場所作りに努めている。		
37	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを 必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない	法人内の他施設に移られた方の所へ利用者様と面会に伺ったり、仲の良かった方が遊びに来られたりしている。入院された際には必ずお見舞いに伺っている。退去された方にはアルバムをお渡ししている。ご家族から「入院中にアルバムを見ながら母に話しかけている」と嬉しい言葉をいただけた。		
	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン . 一人ひとりの把握	' <b>-</b>		
38 (15)	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討してい る。	食事は気の合う方一緒にゆっくりと食べて頂き職員も横に座っている。寄り添いや利用者様同士お話の中から思いに気付けるように耳を傾けている。日々の行動や表情からサインを見逃さないようにしている。意思の伝達が困難な利用者様は担当職員が中心になり、気付きなどを他の職員に情報を伝え支援している。		
39	<u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	面会時、家族会、ケアカンファレンスの機会を利用して一人ひとり の生活歴や生活環境についてご家族から話をお聞きし新しく伺え たことは記録に追加で記入し把握に努めている。利用者様との話 の中からも聞けている。		
40	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等	個人記録や連絡帳を活用し少しのことでも気付きを記入することで、一人ひとりの生活リズムを知るようにしている。これまでの生活歴も参考にしている。		

				,
	項目	取り組みの事実 (実施している内容·実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2	. 本人がより良〈暮らし続けるための介護計画の作	=成と見直し		
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	要望を利用者様に直接伺うと共に、日々の会話を利用者様が言われたそのままの言葉で個人記録に記入し参考にしている。ご家族には面会時や電話にて伺っている。ケアカンファレンスに利用者様やご家族に参加して頂き気持ちを伺ったり、職員間でも意見交換をし介護計画を作成している。		
42 (17)	し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、 家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している。			
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計 画の見直しに活かしている。	個人記録には利用者様の言葉や行動等細かいことでも詳しく記入 している。利用者様とご家族の要望を色分けして分かるようにして いる。気付いた事は連絡帳を活用し職員間で情報の共有化を図っ て介護計画の見直し等に活用している。		
3	. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業 所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	空き部屋を活用しショートスティサービスを行なっている。入所希望の方でデイサービスを利用中に馴染みの関係を作るために時々来られ、リビングで一緒に過ごされることもある。又入院中の利用者様のお見舞いも行なっている。買い物や外食の希望にも応じている。		
4	. 本人がより良〈暮らし続けるための地域資源との	協働		
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら 支援している。	利用者様の希望や好みに応じて地域の公民館、文化会館での催しに参加している。運営推進会議に民生委員、公民館館長、警察署、消防署又は近隣のグループホームをお招きしグループホームのことを知って頂き、地域協働のもと支援が出来るように取り組んでいる。		
46	相談対応·教室の開催、家族·ボランティア等の見学· 研修の受け入れ等)。	地域の住職さんが法話に来て下さる。他、園児、子供会の訪問等がある。又、ボランティア、見学者、高校教師の研修等の受け入れもしている。 ご家族が庭の草取りや花の植え替えを手伝って下さり 肥料や栽培方法について教えて下さっている。		
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じ法人の中で多様なサービスが行なわれている為、連携 し支援に努めている。地域の移動美容室のサービスや歯科の訪問 治療や口腔ケア等も受けられている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの職員を運営推進会議にお招きし、ご家族へ助言をもらったりしている。市の管理栄養指導員に運営推進会 議の食事会に参加して頂き、感想を伺っている。法人の管理栄養 士とのコミュニケーションの場となっている。		
49 (19)	かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医	月に1回法人のクリニックに受診し定期健診を行なっており、結果については利用料請求と共に郵送しお知らせしている。又、入居前からのかかりつけ医で医療を受けられるようご家族と協力し通院介助、情報伝達して歯科の予約や有料で受診の付き添いも行なっている。		
50	職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当法人の理事長が認知症の専門医であり常時、相談している。医師の判断で医大、労災病院の精神科の受診も出来るようになっている。その際には必ずご家族同意のもと一緒に診察を受けるようにしている。		
51	■ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ユニットに看護職が配置されており相談しながら支援している。毎日、病状報告を提出し併設の老人保健施設の看護師とも連携しながら対応している。		
52	できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との	入院中は度々、面会に伺い安心して頂くようにしている。希望があれば入院されていてもお部屋をキープすることが出来る。主治医、相談員、病院関係者と情報交換も行なっている。退院後には併設の老人保健施設でリハビリを受けてグループホームへ復帰もある。		
53 (20)	け早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医	契約時から意向を伺い書面で確認を取っており、早い段階から利用者様のご様子をご家族、医師、職員と十分に情報交換し全員で方針を共有している。終末期の指針、対応マニュアルがあり、医師や看護師が24時間体制で待機している。看取りの経験のある職員も多数いる。		
54	備を行っている。	利用者様の状態変化に備えて職員間で何度も会議を行い医師にも報告、相談している。ご家族の思いに出来るだけ添えるよう話し合いを持っている。看取りの際はご家族の協力を得て行なっている。ご家族はいつでも泊まることができ食事も提供している。医師、看護師と24時間体制で連携を図り、早急に対応できるようにしている。		
55	む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な	他施設へ移られる際は移動前訪問を受け情報交換を行い、アセス メントシートを活用しこれまでの暮らしが継続できるように支援して いる。法人内での移動は法人の相談員が関わるため安心して行な える。移動後は馴染みの職員が尋ねて行くことでダメージを防ぐこ とに努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 その人らしい暮らしの支援 )一人ひとりの尊重			
56 (21)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉 かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしてい ない。	プライバシー保護のマニュアルを作成している。記録等は所定の場所に保管しており、代理人の方にしか公開していない。風花メール、インターネット等の写真掲載も同意を得ている。接遇委員会より丁寧な言葉遣いや二言挨拶、語尾などの指導もあり受けている。受容。傾聴の姿勢を常に意識し対応している。ボランティアの方にもしっかり伝えている。		
57	る力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得し	些細なことでも利用者様が決定できる場面を作っている。職員の都合に合わせず入浴の時間・おやつ・衣服を選んでもらう等、色々な場面で選択肢を提案し自分で決めて頂いている。 行事計画にも利用者様の希望を反映している。		
58	"できる力"を大切にした家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補 充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者 の"できる力"を大切にしながら支援している。	得意とされることやお好きだったことを把握し出来ることの中で主役となる場面を作っている。昔ながらの行事(みそ作り・梅、らっきょう漬け)などでは、利用者様が先生となられ職員が教わりながら活躍の場を作っている。介護計画にも取り入れている。		
59 (22)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごし たいか、希望にそって支援している。	食事・起床・散歩・入浴等今までの生活習慣と利用者様のペースに合わせた生活が出来るように支援している。日々の寄り添いの中で利用者様の希望やお好きな物を伺い、パンやお寿司・エピフライ等多くのものを献立に取り入れている。本をよく読まれる利用者様にはお好きな本や新聞等が読めるように支援している。		
( 2	)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活	舌の支援		
60	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理察・美容は本人の望む店に行けるように努め	外出時には身だしなみに気をつけ立派なお姿を皆に見て頂くようにしている。朝の整容、整髪も援助している。昔から行きつけの美容院に行かれる方もおられ、行く事が難しい方は毎月、移動美容室が来られるので利用されている。特別な日にはお化粧もして頂いている。		
61 (23)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや 力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食 事、片付けをしている。	昼食は法人内の厨房より配食を利用し、朝夕の食事は利用者様と一緒に買い物に行き食材を選んで頂きアドバイスをもらっている。厨房職員が目の前で作る食事はとても喜んで頂いている。ご家族が面会に来られた時にはお日様が作られた海苔巻きを一緒に食べて頂いた。昼食を依頼され居室でお話されながら一緒に食事を楽しまれる事もある。又、天気のいい日はウッドデッキで気分を変えて召し上がって頂く等楽しい食事となる様な工夫をしている。		
62	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好み のものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽し めるよう支援している。	買い物で思い思いの嗜好品を購入され楽しめるように支援している。 リビングでは飲み物も色々揃え好きな時に飲んで頂けるようにしている。 飲み物のメニュー表を用意し選んで頂いている。		
63	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの	チェック表に記入し、お一人お一人の排泄パターンを把握することで適切な時間にトイレ誘導することで一回でも多く自力排泄ができるように取り組んでいる。最期まで尊厳のある支援に努めている。		

		取り組みの事実	印 (取り 組んでいき	取り組んでいきたい内容
		(実施している内容・実施していない内容)	たい項目)	(すでに取組んでいることも含む)
64 (24)		入浴時間は14時~21時とし、希望の時間に入れるようにしている。一番風呂がお好きな利用者様には一番に声かけする等、希望やタイミングにあわせて、菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用し好みの温度に調整して気持ちよく入浴して頂ける様に工夫している。気の合う方と一緒に入られたりしている。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、 安心して気持ちよ〈休息したり、眠れるよう支援してい る。	使い慣れた個々の寝具を使用して頂き安眠できるようにしている。 夜更しの習慣のある方にもご自由にして頂いている。ゆっくりと昼寝 ができるソファーがある。		
( 3	)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活			
66 (25)	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり	担当職員と一人二人で、コンサート・展覧会・お隣の甘味処「古粋」で甘い もの等を楽しまれている。シーツや服の買い物に行ったり季節の花を見に 出かけたりと気晴らしの支援をしている。得意な家事や趣味など、日常の 様々な場面で役割や楽しみごととなる様に支援している。		
67	したり使えるように支援している。	移動販売・パン屋さんが来られた時は思いおもいに買い物を楽しんでもらっている。お金を自分で持ちたいと希望される利用者様にはご家族と相談して小額を持って頂き買い物の折り、支払いをされている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日 の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援してい る。	花の好きな利用者様には四季の花、桜・コスモス・菖蒲・紫陽花・パラ・梅等を見に出かけたり、花屋に行き好みの花を買ったりして頂いている。又、買い物・ドライブ・外食に出かけられるように支援している。近所の神社は散歩コースになっている。誕生日等特別な日に担当職員と一対一のお出かけもしている。車椅子で外出の少ない利用者様を職員が負ぶってお隣の「古粋」に食事に行くこともある。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族会で一泊旅行や日帰り旅行に行ったしている。行ってみたい ところを伺い行事計画に組み込み職員も調整している。地域の行 事やお墓参り・初詣・お寺行事にも参加している。		
70	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙の	いつでも自由にかけることができる公衆電話を設置している。ご家族からも手紙や葉書が頻繁に来ており、手作り葉書(ちぎり絵・絵手紙)に返事を書いてだされている。		
71	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫	面会があった際は職員一同笑顔でお迎えし、お茶や飲み物をお出ししてゆっくりして頂いている。節度ある姿勢でお迎えし、風花にまた遊びに来ようと思って頂けるような、居心地のよい雰囲気作りに努めている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、 居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望された時はいつでも宿泊でき、有料にて食事も提供している。 夜食や飲み物なども準備して環境を整えている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を 取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	一月の風花メールで家族会の日程予定をお知らせしている。又、参加して 頂きやすい休日や祭日に行うようにしている。利用者様の誕生日にはご家 族もご案内し一緒に誕生会をしている。厨房の調理師による出張料理等で 鯛の活き作りや握り寿司等はとても喜んでもらえている。		
( 4	)安心と安全を支える支援			
	薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく	グループホーム勉強会で「3ロック」等、具体的に拘束について意見交換をした。特にスピーチロックの防止として、選択肢のある声かけに心がけている。法人のマニュアルもあり、「どんな場合でも拘束をしないケア」を目標に取り組んでいる。ユニット会議などでも議題にあげるようにしている。職員の疲労や体調不良から拘束に繋がることの無いように休憩時間もとっている。		
75 (28)		職員は利用者様の外出傾向を把握している。、両ユニットのリビングから玄関と門扉が見えることもあり、日中は玄関を開放しご自由に外に出られ花をのんびり眺めたり、洗濯物を干したりされている。畑の野菜を「大きくなってたよ~」と採って来て下さる。		
76		職員間で利用者様がどこにいらっしゃるのか声をかけ合っている。 利用者様の姿が確認できるように立ち位置・座り位置を考えてい る。運営推進会議等でお年寄りが一人で歩いているところを見かけ たら連絡して欲しいとお願いしている。		
77	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人	顔剃り用のカミソリや裁縫用の針をご自分で持たれている利用者様 もおられる。利用者様の状態を考慮し必要に応じて管理している。 台所の包丁は夜間のみ鍵のかかる所に置くようにしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための 知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に 取り組んでいる。	法人の防災マニュアルや各種の緊急マニュアルがあり、老健基本介護研究会もある。誤嚥に関しては職員全員が個々に実習とテストを受けている。インシデント・アクシデントで利用者様のリスクを把握し、事故の再発防止についてリーダーからその都度指導をしている。又、三ヶ月に一度ユニット会議で具体的に事故例を議題にあげ意見交換をしている。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に救命講習がありAEDの操作も職員全員が体験習得している。又、緊急時のマニュアルや夜間の急変時のマニュアルをスタッフルームの見やすい位置に掲示している。ファイルもあり職員全員が直ぐに対応できるようにしている。		
80	た時には、事故報告書や"ヒヤリはっと報告書"等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じてい	インシデント・アクシデントの報告書をその都度提出している。リーダーは直ぐ目を通し職員に指導している。報告書は職員全員に回覧し事故を把握することで再発防止に努めている。報告書は三ヶ月に一回、再度見直しをし予測される事故についてユニット会議で話合っている。		

	項目	取り組みの事実	印 (取り 組んでいき	取り組んでいきたい内容
	/// <del></del>	(実施している内容・実施していない内容)	たい項目)	(すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用 者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の 人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回大規模な防災訓練を利用者様と共に行なっている。具体的に非難経路や場所などの確認をしている。スプリンクラーは完備しているが運営推進会議の際に自治会、法人外の近隣施設、消防署、消防団、消防署の方々と台風の時の避難場所や備蓄について話題にあげ協力を呼びかけている。		
82	<u>リスク対応に関する家族等との話し合い</u> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明 し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し 合っている。	契約時に転倒・離苑・怪我等生活して行く中で今後起こり得るリスク について説明し理解頂いている。インシデントが出た際はご家族に 電話で報告したり、面会時に詳しく説明している。ご家族の気持ち の確認をしながら早い対応を一緒に考えている。		
( 5	)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支持	爰		
83	<u>体調変化の早期発見と対応</u> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常の様子や表情の変化を個人記録や生活記録・連絡帳に書き、情報を共有している。気付きから早期発見、早期対応に努めている。食事量や水分量、排泄状況等記録することで医師や管理栄養士等からも適宜指導してもらっている。		
84 (32)	用 用法や用量について理解しており 服薬の支援と	調剤薬局から、処方されている薬についての情報紙がもらえ、服薬時間や 副作用についても確認できている。服薬は手渡しし飲まれるまで確認して いる。薬剤管理指導時に体調や服薬状況を伝え、薬の形態や飲み方につ いて指導を受けている。新しく処方された薬は連絡ノートと生活の記録で 職員全員が把握できるようにしている。		
85		食物繊維の多い物、乳製品、オリゴ糖等を取り入れたり、適度に体を動かすことやお散歩などで便秘解消に努めている。水分摂取にも心がけている。		
86 (33)	□ <b>腔内の清潔保持</b> □の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人 ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているととも に、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援 している。	食後のケアは利用者様の出来ないことをお手伝いしている。ポリデントを使い適宜消毒している。クルリーナ歯ブラシや舌苔ブラシを使い分け活用している。歯ブラシは形状の確認をし交換している。歯科医師が義歯の調整や歯科衛生士から定期的に口腔ケアを受けておられる。職員も指導を受けることもある。入眠前に義歯をお預かりしている利用者様もおられる。		
87 (34)	一栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日1,400カロリーを目標に毎日食事量・水分量を生活記録に記入して確認している。毎月体重測定を行い医師に報告、助言を頂いている。月二回管理栄養士に食事内容を見てもらい指導をして貰っている。利用者様の状態を伝えミキサー食・トロミ食・ゼリー食のアドバイスがある。法人専属の相川先生より季節の料理の情報がある。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行 している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロ ウィルス等)。	手洗い・消毒をしている。トルや手すりの消毒もしている。法人の感染マニュアルがあり、ノロウィルスやロタウィルス等感染の勉強会が老健基本介護研究会で行われている。。職員・利用者様・面会ご家族と新型インフルエンザの流行を想定して訓練も行った。毎年予防接種を受け、希望される方は肺炎球菌の予防接種も受けられている。		
89	_ <b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調 理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の 使用と管理に努めている。	布巾は毎晩消毒している。まな板はしっかり乾かし清潔に努めている。食材は消費・賞味期限を確認し、期限が近いものから使うようにしている。地元の峠の市場に行き新鮮なものを買っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づく (1)居心地のよい環境づくり	(**************************************		
安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみや 安心して出入りができるように、玄関や建物周 夫をしている。	門に続く小路沿いにベンチを置いて季節の花をゆっくり見てすく、 様にしている。玄関はいつも開放しており散歩中の近隣の7囲の工 話する機会がある。玄関の棚には季節の小物を置いたり絵心和む場所となる様に工夫している。	方とお	
居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、デ 91 イレ等)は、利用者にとって不快な音や光がな (36)に配慮するとともに、生活感や季節感など五息 かける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・ 的に過ごせるような工夫をしている。	いよう  萄・無花果・ぐみ・金柑等のなり物の木が眺められ収穫を楽しみに。 なに働き る。夏は朝顔でカーテン、冬にはコタツを出し季節を感じていただ。	らは葡 されてい ける工夫	
共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合っ 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の している。	た利用しいている。和室もあり思い思いに過ごして頂ける様にしてい		
<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b>	今まで使われていた道具や家具を持ってきて頂きその方らしい部屋作りをして頂いている。二名の利益を持って来ておられる。笑顔の素敵な写真やご家族から届いた葉書をコルク板に貼り部屋に飾っ者様はご家族や面会者とそれを見ながら「いつ作ったんじゃろうか」と話をされている。手作りのちぎと本人と居室や廊下に飾っており嬉しそうに繰り返し見ておられる。	利用者様が仏 ている、利用 切絵や習字な	
換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気 め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	配慮 内に所定の場所に出している。又、防臭のために備長炭や	の日の	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づく	ı)		
9体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、 かつできるだけ自立した生活が送ることができ 工夫している。	建物はバリアフリーになっている。トイレ・浴室・廊下には握りま 安全 すりがある。トイレは一般用と車椅子用があり利用者様に合えるように 易い方を使用して頂いている。手すりの位置などの見直してる。	oせ使い	
	入居の際にご家族の同意を得て各居室に室名札を設けている。混 を防 る利用者様には大きく書いた名前を貼り分かり易くしている。失敗には他の利用者様に気づかれないようにさりげなく支援し、尊厳をない言葉がけに心がけている。	された時	
<b>建物の外周りや空間の活用</b> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだりできるように活かしている。	建物の周りには花壇や畑・洗濯小屋があり、一緒に洗濯物を干しが、活動り、一緒に洗濯物を干しがり、活動り、地畑作りを楽しんで頂いている。又、花壇の花を摘んで生けていている。花や野菜の水やりをして下さり成長を楽しみにされている。歩も楽しみの一つになっている。	ただい	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
. サービスの成果に関する項目		
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴 98 んでいる。	ぼぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面があ   99   る。   -	<u>毎日ある</u> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<u>ほぼ全ての利用者が</u> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や 101 姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。   102	<u>ほぼ全ての利用者が</u> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な〈過 103 ごせている。	<u>ほぼ全ての利用者が</u> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支104 援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めてい 105 ることをよく聴いており、信頼関係ができている。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 106人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者と 107 のつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応 援者が増えている。		少しずつ増えている 全くいない
職員は、活き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足し 109 ていると思う。	ぼぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむ 110 ね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が         家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない